

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2972000364		
法人名	有限会社 とらい・あんぐる		
事業所名	グループホーム 葵		
所在地	奈良県磯城郡田原本町千代839-16		
自己評価作成日	平成28年1月10日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2972000364-00&PrefCd=29&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良市登大路町36番地 大和ビル3F		
訪問調査日	平成28年1月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様がより自分らしく生活できるようなケアを心掛けております。レクリエーションにおいては、外部ではボランティアの方々に協力をいただき、常に世間との接触があるようにしています。内部においても外出の機会を極力設け、また、医療においても訪問歯科と契約し、口腔ケアにも力を入れています。利用者様家族様共に満足と安心を提供できる、質の高いケアを目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は複数の介護保険施設を運営し、近年住宅型有料老人ホームを開設など、法人の規模が大きくなってきている。当ホームは開設12年目で、当時から勤務する職員が多く意思の疎通ができており、意見が活発に出てチームワークがよく職員は笑顔でいきいきとしている。法人代表は「利用者にとって利用料は低負担で、質の高い介護の提供」を目標としており、月1回開催される法人幹部会議で「管理者は職員を大切にできているか？利用者の笑顔は見えただか？」と毎回それぞれの管理者に問いかけている。食事は職員の手作りで提供しており、散歩も気軽によく出かけるなど家庭的である。訪問医と訪問看護師の健康チェックがあり、希望により終末期ケアの体制もあり、医療面も充実している。利用者の元気と笑顔が一番に考えているグループホームである。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	レクリエーションで五感を刺激すること、楽しく笑顔で暮らすという基本理念に基づいて、スタッフは考え、その実践を心がけている。	法人理念「ありがとう おかげさんで いつもことばは 愛であり そして命です」を玄関に掲げている。管理者、職員は利用者の笑顔と元気をモットーに実践している。グループホームの理念が明記されていないので、毎月発行の便り「花言葉」に掲載するのも、家族に伝える一つの方法と思われる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流としてボランティアで、カラオケ・舞踊・アコーディオン等、外部の方に来ていただき、交流の場を持っている。	開設して12年目となり、近隣住民と顔なじみの関係ができ利用者と職員が散歩中に気軽に挨拶を交わしている。利用者が行きつけの美容院もあり、近所付き合いが増えてきた。自治会長の協力のもと幼稚園の運動会や村祭りに参加したり、地域の廃品回収にも協力している。踊り、アコーディオンなどボランティアの訪問がある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	カラオケ・舞踊・アコーディオン等の行事の時は地域の方を招待している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	最近地域包括支援センターの方々にも積極的に参加頂いており、そこで様々な意見を頂いている。	運営推進会議は町担当職員、地域包括支援センター職員、自治会長、家族が出席して、2か月に1回開催している。事業所の現状や行事報告を行い、時には講師を招いて勉強会をしている。昨年6月の会議では、看取りをされた利用者家族が「ターミナルケアに関する想い」を話された。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認知症の方の受け入れ相談、生活保護者の受け入れ相談を行っている。	昨年、町役場から独立した地域包括支援センターから研修や地域ケア会議の案内があり参加した。利用者の介護認定更新申請時に新しく始まったマイナンバーの件で具体的な指示を仰いだり、生活保護の利用者を1名受け入れるなど、町と協力的体制を築いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないケアについても、各種研修、ミーティングの機会をとらえ、学習している。	身体拘束ゼロのマニュアルはあるが、今年度はまだ研修を行っていない。日中、門は施錠しているが玄関の施錠はしていない。ベッドの壁際にマットレスを使用したり、センサーマットを利用して、怪我や転倒予防に努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各種研修で、虐待防止に対する教養を深め、スタッフミーティング等での勉強の場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者やケアマネージャー等は機会を捉えて極力参加している。そして職員には資料を提示し、話し合う機会を設けている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用に関しては、体験入所を行い、納得されたからの契約としている。契約時、不安や疑問が生じない様、十分に説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月の便りに会社代表者の携帯電話への相談苦情窓口として利用を促進し、契約の際に外部相談窓口の案内もしている。	家族の面会は多く、半年に一度ケアプラン見直し時にも管理者や職員と話し合っている。面会に来られない家族には電話で利用者の様子を伝えている。月便り「花言葉」に代表者の携帯番号を掲載し、家族からの連絡や苦情を受け入れやすくしている。運営推進会議の日程を調整して出来るだけ多くの家族に参加してもらい、意見や要望を聴くことができればなお良いと思われる。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度ある幹部会議での伝達事項を日々の申し送りの際に通達し、その場で、もしくは随時、スタッフの意見や提案を聞く機会を持っている。	管理者は朝の申し送りに利用者情報など伝えている。事業所開設当時から職員が多く、日常的に管理者や統括管理者に直接意見や提案を個々に伝えている。近年法人の規模が大きくなり、法人全体の幹部会議が月1回開催されるようになった。幹部会議で管理者は職員の意見などを法人代表者に伝える機会がある。	日常的に職員と管理者は個々に意見交換や提案がなされているが、現在全職員が参加できる会議は設定されていない。職員会議を定例化し、会議で話し合われた意見や提案を幹部会議に上げ、ケアや運営に反映されることを期待する。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与面で、日々の業務内容を評価し、職務手当で加算・減算を行っている。労働環境も年々改善を図っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修については、可能な限り受講できるよう配慮している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議等にも積極的に参加し、同業者間でのコミュニケーションを確保している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所に至るまでに面会・面談を重ね、書面のみでの判断はしない。本人の面談も可能な限り行う。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用入所に至るまでに体験入所を行うなどの機会を持ち、相互の不安を取り除く努力をしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時、まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所される本人にとって、グループホームでのケアが最適なのかどうかの見極めを、まず行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本意の生活を第一と考え、意見を取り入れながら、ライフスタイルを考えている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時には家族の協力も求めながら、一体的なケアを心がけている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設への訪問時間、回数、訪問者の限定は一切行っていない。	職員は、利用者のかけがえのない家族との関わりを大切にしている。利用者は家族と共に出かけたり、正月や盆に自宅へ外泊している。利用者6名は地元の方で、近くの津島神社参拝時に家族と出会う事もあった。ドライブ道中での風景に懐かしむ方もいる。孫の成長写真を家族に催促して楽しむ方もいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席替えなどを行いながら、利用者同士の人間関係に配慮している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後のケアや他施設への入所支援もやっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を尊重しながら、家族・スタッフが話し合いにより、本人の思いや意向にあうケアを提供している。	利用者の思いや意向は日常的に統括管理者や管理者、職員はていねいに聴き取っているが、記録していない。日々の活動日誌等に利用者の希望や職員の気づきなどを詳細に記録することが、職員間で情報を共有し利用者の思いをケアに反映させる一つの方法だと思われる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前、入所後の家族との面談、相談を密にして、生活歴の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	強制することなく自由な生活をしていただきながら、レクリエーションや食事などの機会を促し、現状把握を行っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーが中心になってカンファレンスを行い、介護計画の作成、見直しを行っている。	日々の申し送りノートや活動日誌の記録を基に、ケアマネージャーが管理者の意見を聞いて介護計画を作成している。毎月計画のモニタリングと評価を行い、6ヶ月に1回見直し、その都度、家族に説明している。ケアマネージャーの主催で行われるケア会議には、より多くの職員が参加できればなお良いと思われる。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティングやカンファレンスの機会を持ち、ケアマネージャー、管理者、スタッフが協力し、ケアの検討を行い、家族にも十分な説明を行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望の把握を行い、柔軟にニーズに応えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアとして、カラオケ、舞踊・アコーディオンなどの受け入れを行っている。デイサービスも希望があれば利用再開を予定。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	診療を受ける医療機関の強制は行わない。家族や本人の希望される医療機関を利用している。(現在、2機関)	家族・本人が希望するかかりつけ医に往診してもらっている。希望により歯科医の往診もある。以前からのかかりつけ医に家族が付添い受診される方もいる。訪問看護師が週1回健康チェックに来ている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医療機関の医師、看護士との協力体制があり、月2回の往診結果をもとに、訪問看護も週1回受けており、健康管理を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医療機関と連絡を密にし、入院先病院の紹介、退院後のケアに至るまで、連携体制を構築している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームとして対応可能な状況について、あらかじめ医師、家族と相談し、方針決定を行っている。	終末期ケアが必要になった時は、職員は家族と協力医師と看護師と話し合い、方針を立て家族の同意を取っている。看取りケアが始まると「看取りノート」を作成し、日ごとの様子を克明に記録して、家族の理解と納得を得るように心がけている。開設以来、3名の方の看取りケアを経験した。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応について、定期的を意識付けを行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	管理者が防火管理者の資格を取得し、定期的に災害時の避難訓練を行っている。防災防火設備の施行が出来ている。	スプリンクラーは完備されている。普段から近隣に災害時の協力をお願いしており、全員参加で昨年3回避難訓練を行った。緊急避難時には1階の窓の外の地面に布団を重ねクッションにするとよいなどと消防署からアドバイスを受けた。米や飲み物などの備蓄をしている。夜間想定避難訓練も実施するとなお安心である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の保護について、ミーティング等機会を捉え研修している。トイレ誘導等はさりげなく声掛けをする。	普段から大きな声をださないように心がけ、トイレや入浴の誘導時には無理強いしないで、さりげない声かけをしている。羞恥心のある方はそっと陰から見守るなどの配慮をしている。居室に鍵をかけておられる利用者がある。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	強制することなく利用者の意志を尊重し、ケアを実践、支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の流れにおいても利用者の希望やペースを大切にしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやお酒落に対するアドバイスは、必要であれば行うが強制はしない。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外食は月1回行っている。外食の困難な方には持ち帰りのセットを購入。スタッフも利用者と同じ物を一緒に食事している。	毎日厨房で担当職員が料理を手作りしており、調理中の匂いが部屋中に漂い食欲をそそるためか利用者は大抵完食している。調理には彩りや野菜類を食べやすくする為に刻み方を工夫している。誕生会にはケーキや飲み物を用意し、赤飯を炊く時もある。月1回は外食を楽しんでいる。	食事時に利用者が着用しているエプロンの端を配膳盆に挟み込み食事をされており、食事時の動作が窮屈そうに感じる。また、車いすでの食事も食べにくい姿勢に見受けられる。「食事を楽しむ」という観点から、食べやすい姿勢についてもう一度話し合わせ、その人に合った工夫を期待する。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の摂取量については把握を行い、不足がちである場合は早急に対応出来る様支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医と提携し、週に1度、治療や口腔ケア、義歯の調整を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、出来る限り自立排泄の支援を基本とするトイレ誘導を行う。	排泄チェック表を活用して時間を見計らい誘導をしており、失敗のない排泄ケアを行っている。尿取りパッド使用の方がほとんどであるが夜間はポータブルトイレを使用している方が3名いる。夜間も巡回時に排泄チェックを行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック等で便の状況を把握し、便秘状態にある場合は、安易に薬に頼らず飲食物を工夫する等の方法で対応を考える。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を楽しめるよう支援している。強制は基本的にはしない。	土・日曜日以外の週2回、5～6名入浴してる。入浴日や入浴時間、湯の温度など利用者の希望に合わせている。希望により同性介助も行っている。身体能力の低下に応じて、同法人が運営する近隣の施設の器械浴槽を利用することも考えている。浴室は北向きのため、暖房器具類があるとよいと思われる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の持つ生活パターンを乱したり、強制はしない。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬情報等により薬の目的、副作用等を充分理解し、服薬支援している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活への参加を促し、残存能力を高める努力を行う。強制することなく自然な形で出来る様支援する。習字の好きな方には垂れ幕等を書いてもらっている。コーヒーマシンをレンタルし、週に2回振る舞っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、散歩等についても強制することなく支援している。花見、紅葉狩り等機会を捉えてドライブに出る様心掛けている。	毎日全員で散歩に行くようにしており、車いすや手押し車を利用して外出支援を行なっている。花見や紅葉狩りやみかん狩りなどのドライブにも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が可能な利用者については、買い物等についてもスタッフは支援を行う。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙等について一切規制はしていない。家族と年賀状交換の支援をしている。		
y	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面等を活用し季節感を出し、四季を感じてもらえる配慮をする。手作り作品を飾る。	利用者はゆったりと居間で過ごされることが多い。折り紙の季節作品が飾られて賑やかである。週2回は午後にコーヒーマーカーで本格なコーヒの香りを楽しんでいる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室意識があり、親しくなった方の部屋で話をされる利用者もあり、一切強制はなく、自由であることを支援している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等の持ち込み等についても規制は一切していない。特に使い慣れた椅子を持ってこられる方もいる。	居室入口に写真入り手作り表札がかけられ、風情がある。部屋にはベッドやエアコンが備え付けられ、各自の手作り作品や孫の写真などが飾られている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋には自分の写真、名前プレートを貼ったり、大きめの字で掲示したりしている。		